



豊後大野市立緒方中学校学校だより

青雲の大志

令和6年10月28日

NO.63 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

豊後大野市人権・部落差別解消教育研究大会緒方大会

10月22日（火）に標記の研究大会が本校で開催されました。中学校部会は、9年生が総合的な学習の時間に探究してきた単元「**今も残る差別問題を通していかに生きるか考えよう**」の授業を公開しました。生徒は、この授業までに、豊後大野市在住で、差別解消に深くかかわってこられた後藤宏文先生や足立哲範先生の講話をお聞きしたり、市役所やハローワークを訪問して差別解消に向けた取組をお伺いするなどして、「結婚差別」「就職差別」「在日外国人差別」「ハンセン病問題」「ジェンダー平等・LGBTQ」について、調べ学習とその成果の交流をしています。公開授業では、「差別解消に向けて自分にできること」について考えました。ここでは、当日、発言の機会がなかった生徒の考えを紹介します。



差別解消に向けて自分にできること

◇僕は差別を無くすためには、まず「知る」こと、そして「伝える」ことが大切だと思いました。そのことを知らなければ偏見が起きてしまい、不利益を被る人が出てきてしまうかもしれないからです。「伝える」とは**自分が知っている正しい情報を周りの人に伝えていけば、いずれ差別はなくなる**と思いました。講演でも先生がおっしゃっていたように、他人事として考えず、自分事として考えることが一番大切だと分かったので、**どんな事も自分事として考えるくせをつけていきたい**です。（山浦新太郎さん）

◇差別をするための知識ではなく、差別をしないための知識をつけ、なくす活動をする。なぜなら、**知識がなければ、人は怖くて、どうにもできないまま他人の考えに乗ってしまう**ため、意識の変化が期待できないから。「みんなこれをしているから、自分も…」と知らないまま何かに手を出した結果、人を差別することもありえると思いました。（木本陽さん）

◇差別解消のためには、**積極的に行動することが大切**だと思いました。これまでの学習で、今も差別があっているにもかかわらず、無関心な人や差別について知ろうとしない人がいると知りました。なので、自分たちから身近な活動に参加したりその活動で学んだことを、またいろんな人に伝えていったりなど、積極的に行動することが、差別をなくす第一歩になるんじゃないかと考えました。（文東拓海さん）

学習の全体計画等は緒方中HPIに掲載しています。
なお、人権学習については、7年生・8年生も総合的な学習の時間で、探究的に学んできました。文化祭の学年発表で成果をご覧ください。

◇私が、差別解消に向けてできることは、やはり「**知ること**」だと思います。理由は、他の班の話聞いて分かったことは、誤った情報や偏見、無関心など、いろいろな差別に対しての今の現状でした。**差別には「知らなかった」という言い訳は通用しません**。正しい知識を学び、深めていくことが、私たちにできることだと思います。（宮成幸奈さん）

単元を振り返って

◇まずは、自分が差別のことについて知り、まとめ、いろんな人に伝えていくことが大切だと学びました。自分が差別に出会ったとき、一緒に差別する側ではなく、**止める側になっていきたい**と思いました。今回のことを心にとめ、生活の中でも生かしていきたいです。（三嶋知那さん）

◇差別は古くからあり、問題だったにもかかわらず、**自分は何も知りませんでした**。この学習で、様々な差別があること、今もなお、苦しんでいる人々がいることを知り、解決していかなければならない**問題であることを学習**しました。さらに深く学び、差別を無くすためにいろいろな人に伝えていきたいです。（合澤翔真さん）